

連載
第5回

教師としての視野を広げる! 世界の日本人学校 マンスリーレポート

グローバルな現代社会。教室には、海外につながる子供たちも少なくありません!
教師としての国際感覚を磨くため、海外の日本人学校のようすを毎月レポートします。

在外教育施設について

海外で日本の教育を受けることのできる教育施設で、「日本人学校」「補習授業校」等があります。現在、保護者の勤務の都合等で海外に滞在している日本の子どもたちは約8万3000人。このうち、約4万1000人が在外教育施設で学んでいます。

香港日本人学校香港校 小学部

澤井 佑介(さわいゆうすけ)

2018年度赴任、小学部3年生学級担任。



1 赴任したきっかけを教えてください

私は小中と香港日本人学校に2年半の間、通っていた経験があります。そのため学生時代から海外で働くということへの興味がありました。加えてこれまで自分自身関わってきた様々な教育の場面から、「その人に合った教育の方法とは何か」ということを考えるようになり、少しずつ人材教育に関心を持つようになりました。

本校で教員となる以前は一般企業で働いていましたが、教育分野、中でも自分自身の経験を少しでも還元できればという思いから、海外の子女教育に携わりたいという希望を持つようになり、応募しました。海外子女教育振興財団については、情報を集める過程で知り、2018年にご縁があって母校に戻ってくることとなりました。



住んでいるマンションの外観

2 学校の概要を教えてください

香港日本人学校は香港校と大埔校の2校あり、中でも香港校は1966年に設立された52年の歴史を持つ私立学校です。2018年度から中学部が香港校に併設されました。

香港校小学部では約300名の児童が在籍しています。本校舎では室内プールが設置されており、一年の多くの期間利用できるのが特徴です。子どもたちの多くは各エリアからスクールバスに乗車して登下校しています。2016年には通常学級に加えて、グローバルクラスが創設されました。英語力を身に付けるだけでなく、日本人学校の特色を生かし、日本の学習指導要領に基づく教育や学校生活を行いながら、これからの社会に必要な人材の育成を目指しています。



校舎は山の上であり、セキュリティもしっかりしています



海外で働く 学校採用教員Q&A

Q11 任期や待遇は?

A11 4月赴任の場合、任期は2~3年が目安です。待遇については、給与以外に賞与、住宅手当、医療の補償、赴任・帰任時の航空券並びに支度金等の支給があります。一方、4月以外の赴任の場合は学校独自で設定された任期、待遇となります。

Q12 赴任先はどのような国・地域ですか?

A12 大規模校のあるアジアが多いです。また、中南米、ヨーロッパの学校が募集されることもあります。詳しい情報についてはJOESホームページで確認できます。

海外子女教育振興財団

海外子女教育振興財団 (Japan Overseas Educational Services=JOES) は、1971年に外務省及び文部省(現文部科学省)の共管の財団法人として設立され、2011年には内閣府の認可を受け公益財団法人となりました。設立以来、海外子女・帰国子女教育の振興を図るため幅広い事業を実施しており、学校採用教員の雇用支援もその一環として行っています。

日本人学校等学校採用教員雇用支援、「学校採用教員レポート」などについて、詳しくはこちらから<http://www.joes.or.jp>



3 この国の学校ならではの!という特徴は何ですか?

各学年が行う現地校との交流会では、言葉がお互に通じない中でも積極的にコミュニケーションを取る姿が見られます。また社会科見学では、現地に進出している多くの日系企業の協力もあり、現地で働く人々の姿を見学することができます。最も大きいイベントは運動会です。学校には運動会を行うような大きなグラウンドがないため、グラウンドを借りて行います。香港だから特別というイベントは少ないかもしれませんが、日本と変わらない行事を香港という環境で経験できることがこの学校ならではの、という点だと思います。治安も良いため、安全管理ができていれば比較的自由に子どもたちが活動できます。



香港でも運動会は一年で最も盛り上がるイベントです

4 学校で勤務した感想を教えてください

現在3年生の担任を受け持っており、日々多様な業務がありますが、周りの先生方から多くのアドバイスを頂き、楽しく過ごしています。初任者研修や合同研修会等も充実しており、教員としては初任の私でも、多くの勉強の機会があります。また、さまざまな地域から集まった先生方と一緒に働くことができるという点は、今後にもつながる貴重な経験です。「小学校教員」と一言で言っても、個人で異なることはもちろんですが、地域によってもさまざまな伝統や異なるアプローチ方法があるのだと感じています。それを知ることができる環境にいるのは、海外で教員をすることのメリットの一つなのかもしれません。



ラグビーのサンウルブズのラグビー教室(高学年)。このような機会があるのも日本人学校の特徴です

5 教え子が帰国したとき、日本の先生方に伝えたい伝達事項は何ですか?

教員も児童も入れ替わりの多い日本人学校という環境にいるからなのか、子どもたちは環境の変化に慣れていると感じます。加えて自分の意見をしっかりと伝えるという点は日本の子どもたちと比べても強みがあると考えています。一方で日本的な規律、ルールといった点についての意識が薄い児童もいます。特にインターナショナルスクールを経験したことのある児童は、日本的な集団行動のルールについての認識が異なるように感じます。仮に日本の学校に通うこととなった際には、知らないことイコール恥ずかしいや勉強不足と感じないように、向上心を持てるようなサポートがあれば日本と海外の経験をどちらも活かすことができるのではないのでしょうか。



学校からの風景は香港が一望できます